

8. 保健師に求められる能力の獲得方法について

各期の保健師にもとめられている能力を獲得するには、日々の実践的な現任教育により必要な「職場内研修（OJT）」、能力・技術・知識等の向上を図る「職場外研修（off-JT）」、多様な職務を経験させることで個人の能力の向上を図る「ジョブローテーション」及び本人が主体性をもって取り組む「自己啓発」の方法をバランス良く組み合わせる行うことが重要である。また、状況に合わせて工夫や改善が必要である。

▶ 職場内研修（OJT）

OJTとは、日常業務を行う上で、上司や先輩などの指導者が、計画的、意識的に助言、支援、評価を通して人材育成を図ることである。

具体的には、所内研修会、事例検討会、業務検討会、保健所が主催している地域保健関係職員研修等がある。

▶ 職場外研修（OFF-JT）

OFF-JTとは、公衆衛生従事者に必要とされる能力、知識、及び技術の向上を図り、実践活動につなげるための研修の場である。

具体的には、階層別研修（新任期研修・中堅期研修・リーダー期研修・プリセプター研修）（参考資料：キャリアパスのイメージ参照）、公衆衛生看護学実習指導者のための研修、国立保健科学院への派遣研修がある。

業務別研修については、エイズ・結核・難病・精神・母子・健康づくり等があるが、それぞれ業務担当時に受講する必要がある。それぞれについては、個々の研修履歴を把握した上で、計画的に行う必要がある。

また、保健師は行政職でもあるので、自治研修所が行っている職位に応じた研修も受講する必要がある。

▶ ジョブローテーション

ジョブローテーションとは、人事異動による担当業務の経験の積み重ねや人事交流を通して人材育成を図るものであるが、一人一人のキャリアプランとこれまでの経験をもとに進めていく必要がある。人事部門と連携しながら進めていく必要がある。

▶ 自己啓発

自らの専門能力を高めることは専門職にとって重要なことである。自己の専門領域の学習を深めることも必要であり、調査や研究に取り組むことも必要である。